

# 平成27年度 指定管理業務評価結果書

## 1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	中島病院旧本館（呼称：城西浪漫館）
(2) 指定管理者	所在地 岡山市北区表町一丁目1-40 名称 ㈱内外総合通信社 代表者 代表取締役 延原 誠
(3) 公の施設の所管部署	都市建設部歴史まちづくり推進室
(4) 指定期間	平成27年4月1日 - 平成32年3月31日
(5) 評価対象期間	平成27年4月1日 - 平成28年3月31日

## 2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	平成27年度実績	対26年度	平成26年度実績	対25年度	平成25年度実績
来館者数	12,564人	2,615人	来館者数 9,949人	2,610人	来館者数 7,339人
（男性）	6,384人	1,522人	（男性 4,862人）	1,418人	（男性 3,444人）
（女性）	6,180人	1,093人	（女性 5,087人）	1,192人	（女性 3,895人）
喫茶利用者数	5,272人	781人	喫茶利用者数 4,491人	293人	喫茶利用者数 4,198人
(2) 事業の内容	開館業務、貸館業務、喫茶室運営業務、自主事業【お花見ランチ、ありし日の津山武家屋敷写真展、端午の節句祝いと津山藩土古文書展、宇田川榕菴御命日城西まち歩き、津山のあやかし物語展、榕菴珈琲の無料試飲会、婚活Party in 城西浪漫館、城熱!!津山城かるた展、コーヒーの日「榕菴珈琲」試飲会、キッズフリマ、徳守祭だんじり衣装展、宵のまち歩き 徳守祭宵宮編、城西まるごと博物館フェア小学生絵画展、世界糖尿病デーに合わせ城西浪漫館がブルーにライトアップ、美作国大茶華会、歳末チャリティー企画展「聖なる夜の心象二人展」、城西浪漫館イルミネーションとX'masランチ&クリスマスの歴史展、特別展示「中島家に伝わる神農像」と甘酒無料配布、からくり山車と珈琲罐、希望ヶ丘ホスピタルの仲間たちによるロールアート展、など】				

## 3 収支の状況

(1) 収入	平成27年度実績	対26年度	平成26年度実績	対25年度	平成25年度実績
(指定管理者の収入)	総額 8,108千円	-27千円	総額 8,135千円	135千円	総額 8,000千円
内訳	内訳		内訳		内訳
指定管理料	2,500千円	31千円	2,469千円	69千円	2,400千円
利用料金	521千円	477千円	44千円	-53千円	97千円
喫茶売上	3,705千円	619千円	3,086千円	-259千円	3,345千円
自主事業（参加者負担金）	163千円	-98千円	261千円	63千円	198千円
雑収入（物販ほか）	122千円	-839千円	961千円	0千円	961千円
自社負担金	1,097千円	-217千円	1,314千円	315千円	999千円
(2) 支出	平成27年度実績	対26年度	平成26年度実績	対25年度	平成25年度実績
(指定管理者の支出)	総額 8,108千円	-27千円	総額 8,135千円	135千円	総額 8,000千円
内訳	内訳		内訳		内訳
人件費	4,538千円	-642千円	5,180千円	-1千円	5,181千円
消耗費	47千円	-24千円	71千円	-38千円	109千円
光熱水費	414千円	-25千円	439千円	20千円	419千円
通信費	82千円	32千円	50千円	-50千円	100千円
警備委託	92千円	-9千円	101千円	千円	101千円
備品費	55千円	-110千円	165千円	千円	165千円
研修費	279千円	93千円	186千円	1千円	185千円
会費等	41千円	3千円	38千円	9千円	29千円
喫茶仕入（4月～3月）	2,091千円	466千円	1,625千円	194千円	1,431千円
自主事業費	70千円	-210千円	280千円	千円	280千円
その他（租税公課等）	399千円	399千円	千円	千円	千円

## 4 総合評価結果

(1) アンケート調査等 婚活イベント参加者にアンケート調査を実施
(2) 指定管理者の自己評価 郷土の偉人、宇田川榕菴を顕彰するため当館が開発した「榕菴珈琲」の知名度をここ数年でかなりアップすることが出来た。今年度も多数のメディアで紹介されることで当館の知名度アップにも繋がる相乗効果を実感できた。実際に喫茶利用者数も増加傾向で順調に推移した。また津山市がスタートさせた津山珈琲倶楽部との連携も図ることが出来た。同時に地域の歴史と文化に重点を置いた展示を企画。特に地域の人々と連携した自主事業を地域情報発信拠点施設として強く意識して取り組んだ。地域の行事にも積極的に参加し、良好な関係が構築できていると自負している。HPも開館日は毎日更新して情報発信に努めている。しかし立地的な不利を解消するまでには至っていない。集客は当館が独自に行う場合がほとんどで、企画ごとにチラシを作り職員が市内各所に配布するなど努力を続けているが、さらに企画展示の内容をレベルアップするなどして、今年度も達成できなかった単年度黒字化を経費削減も併せて実現したい。
(3) 市の評価 毎月特色ある自主事業を実施し、新聞等のメディアに度々取り上げられたり、開館日は毎日ホームページを更新するなど広報活動にも積極的に取り組み、施設の知名度向上に大きく貢献している。城西まるごと博物館フェアへの参加など、地域と一体となって行うイベントは恒例行事となっており、施設の利用促進にも効果をあげている。地域住民やNPO法人、洋学資料館や津山市が運営している津山珈琲倶楽部など、多方面との連携を図られていることは大変評価でき今後とも継続していただきたい。利用者からの意見収集については、アンケート調査やホームページの効果的な活用にも努めるなど工夫し、事業推進に反映させてもらいたい。来館者数、喫茶利用者数とも堅調な伸びを示していることも大いに評価できる。今後は自己評価においても目標とされている単年度黒字化を見据え、経営の一層の効率化を図る等、新たな試みにも期待する。 なお、平成28年5月30日に開催された審査委員会においても、業務内容に関しておおむね良好であるとの審査結果であった。